

福祉サービス第三者評価結果

①第三者評価機関名

有限会社プログレ総合研究所

②事業者情報

名称：	越谷なごみの郷	種別：	特別養護老人ホーム
代表者氏名：	橋本 かおり	定員(利用人数)：	84 名
所在地：	〒343-0827 埼玉県越谷市川柳町3丁目60番地1	TEL	048-987-0753

③評価実施期間

令和元年5月1日（契約日）～令和2年12月12日（評価結果確定日）

④総評

◇特に評価の高い点

1、利用者に安心・安全なサービスを提供するためのリスクマネジメントに力を入れている
 ISO取得の経緯があり、事故発生時の対応は、手順が明確化され、職員に周知されるしくみが構築されている。ヒヤリハットについては、事故内容を表にして分類するだけでなく、棒グラフにして視覚的にもわかりやすくすることで、どの部分に気を付けなければいけないかの分析と目標管理をしている。特に、感染症対策は、利用者の生命と健康に直結する重要事項ととらえ、各職員は、毎日チェックリストを使用して各自の健康管理をおこない、冬期には、加湿器の水に除菌剤を加えるなど、まずは、施設内に感染症を持ち込まないことから徹底している。もし、感染症が発生した場合には、最小限で食い止められるよう、事前にレベル1～8までの段階ごとの状況判断とその時の対応を決め、1階廊下の見やすい場所に大きく掲示して周知している。

2、24時間シートという独自の記録用紙を用いて、業務の標準化とケアプランに沿った支援の充実を図っている
 利用者ごとに、24時間の各時間帯での生活習慣や利用者本人が自分でできること、支援が必要なこと、その時々リスクなどを「24時間シート」という独自の様式に記録し、情報を集約化している。ケアプランに記載された支援内容は、職員がわかりやすいよう、文字に色を付け、毎日その支援が実施されたかどうかのチェックと出来なかった場合には、その理由も記入している。実施の有無をチェックする欄が設けられていることから、標準的な実施方法に基づいた支援をしているかの確認の記録としても利用されている。職員にとっては、時間ごとにやるべきことが明確になることから、手順書としても利用され、介護技術の標準化につながっている。

3、地域の関係機関と連携しながら、地域貢献に努めている
 入職時には、必ず、社会福祉法人の役割について施設長が説明をし、施設の建物、備品は誰が使っても良いし、貸しても良いものであること、関係機関と連携し、地域貢献が求められていることを説明している。施設長は、日頃から、役所で困っていることを聞き取りしたり、地域ネットワーク会議、地域ケア会議などに参加して地域とどのようにかかわりを持ち、施設として何ができるかを考えている。役所から依頼のあったオレンジカフェの継続は、地域とのかかわりの1つである。オレンジカフェは、認知症の方以外の参加も可能であり、障害者の方々に製造したパンを販売してもらったこともある。清掃活動、成人式の手伝い等に加え、毎年10月には、日頃の感謝をこめて、秋祭りを開催し、地域の方々との交流を深めている。

◇特にコメントを要する点

1、事業計画の進捗状況を確認するしくみを検討し、実施することで、計画に基づいたサービス実施の確実性が増すことを期待する
 施設の事業計画は、施設の経営状況の把握・分析結果及び地域ニーズに基づいて作成されており、中・長期計画をもとに単年度計画も作成されている。年度の事業計画には、施設長の品質方針が示され、委員会毎の目標のほか、事業の課題と目標を盛り込んだ内容となっている。例えば、今年度は、計画にある、喀痰吸引・経管栄養を実施するための体制構築のように、計画に記載されながらも、9月現在において、実施が遅れている項目もあるため、事業計画の進捗状況が年度途中に適宜、確認できるしくみ作りを検討することで、事業計画に沿ったサービス提供の実行性が増し、サービスの向上につながることを期待する。

⑤ 第三者評価結果に対する事業者のコメント

施設として特に拘りを持ち取り組んでいくことがしっかりと評価されたことは、やりがいとして職員と共有し、更に成果につなげていきたいと思えます。視野を広げ、情報収集や求められるニーズに応えます。

経管栄養の方の入所において制限はしていないが、喀痰吸引については、まずは、事業所登録から進めなければと考えています。職員不足による現場職員の状況等、考慮した上で資格取得を促していきます。

⑥ 各評価項目にかかる第三者評価結果

別紙「評価細目の第三者評価結果」のとおり